

令和5年度入学試験問題

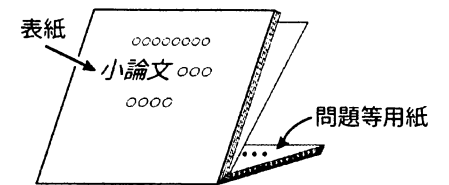
小論文（総合科学部） 851

（後期日程）

（注意事項）

- 1 問題用紙，解答用紙および下書き用紙は，係員の指示があるまで開かないこと。
- 2 この表紙を除いて，問題用紙は5枚，解答用紙および下書き用紙は各4枚である。
用紙の折り方は図のようになっているので注意すること。
- 3 第1問，第2問の両方に解答すること。
- 4 それぞれの問題に対する解答は，その問題番号の解答用紙に書くこと。
- 5 解答は横書きにすること。
- 6 解答用紙の裏面および下書き用紙に解答したものは採点しない。
- 7 解答開始後，各解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 8 下書き用紙を含め，配付した用紙はすべて回収する。

表紙も問題・解答用紙も全て
表面のみに印刷している。



小論文 (総合科学部) 851

問題用紙 その1

第1問 次の文章を読み、下の問い(問1～3)に答えなさい。

いま流行りのキャリア教育が実施されている現場に行くと、必ず目にするフレーズがある。「夢」「やりたいこと」「なりたい自分」「就きたい職業」……等々である。

少々大げさに言えば、今どきの子どもたちは、小学校の時から繰り返し「あなたの夢は?」「やりたいことは?」「就きたい職業は?」と尋ねられながら育っている。現在のキャリア教育において、「やりたいこと」の探求はそれほどまでに重視されている。

でも、“そのどこがいけないの?”と思われるだろうか。

さすがに僕も、キャリア教育における「やりたいこと」重視を全面的に否定するつもりはない。むしろ、子どもや若者に目標を持たせることの意義は、キャリア教育においてこそ追求されるべきだと考えてもいる。将来の目標があつてこそ、目の前の課題に挑戦し、取り組もうとする意欲も高まるからである。

しかし、同時に、現在のようない「やりたいこと」重視の傾向を見ていると、どうにも気になってしまうこと、「危うさ」を感じてしまうこともある。このあたりのことについて述べていくことにしたい。(中略)

表1を見ていただきたい。ベネッセ教育研究開発センターが実施した「第二回子ども生活実態基本調査」(2009年)から、高校生の「なりたい職業」のランキングを取り出したものである。

表1 高校生のなりたい職業ランキング

	男子		女子	
1位	学校の先生	4.7%	保育士、幼稚園の先生	5.3%
2位	公務員	3.6	学校の先生	5.1
3位	研究者・大学教員	2.7	看護師	4.8
4位	医師	2.3	薬剤師	2.9
5位	コンピュータープログラマー、システムエンジニア	1.7	理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士	2.4

(回答数 6319)

質問票には、具体的な職業名をあげた選択肢は用意されていない。回答者(高校生)が自由に記述する形式がとられている。したがって、ここにある分類は、集計の際に調査者がまとめたものである。

さて、ランキングを一瞥すると、すぐに気づくことがある。おわかりになるだろうか?

高校生があげている職業は、男子の二位の「公務員」を除けば、すべて「専門職(あるいは専門的職種)」である。基本的には、職業生活を通じてずっと同じ仕事をしていくスペシャリストのイメージである。

調査に回答した高校生のなかには、確かに将来「専門職(専門的職種)」に就くことになる者もいるだろう。しかし、実際には多くは、「事務系の会社員」「サービス系の会社員」「技術系の会社員」になっていくのではないか。(もちろん、これが正社員であるとは限らないという点が、今どきのご時勢なのであるが。)

(その2に続く)

小論文 (総合科学部) 851

問題用紙 その2

(その1より続く)

にもかかわらず、これらがランキングに登場することはない。しかも、「事務系」「サービス系」「技術系」の中身は漠然としており、具体的な仕事内容は、入社してからしか確定しない。そしてその後も、ジョブ・ローテーションによって変わる可能性も強い。

日本の職業世界では、専門職や専門的職種などを除くと、そもそも雇用は、ジョブ（仕事）によって切り分けられていない。文系のホワイトカラーなどでは、その枠内であれば、どんな仕事にも対応できることが求められる。職業世界の「現実」がこうであるのに、キャリア教育においては、「やりたいこと（仕事）」を明確にすることが求められる。—こうした対応関係には、もともと無理があるのではないか。

僕が、「やりたいこと」重視のキャリア教育に“危うさ”を感じてしまう理由には、この問題が根っこの部分に横たわっている。

(出典：児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書、2013年、pp.63-67より、一部省略)

問1

下線部について、著者はどういった点についてどうして危うさを感じているのか、100字以内で説明せよ。

問2

日本の職業世界の現実、つまり雇用慣行の特徴や問題点、近年の変化について、本文に書かれていることに加えて、あなたがこれまでに学んだり自分で調べたりして知っていることも盛り込んで300字以内で説明せよ。

問3

日本の職業世界の現実を踏まえて、あなた自身はこれからどのような学びをしなければならないかについて、あなたの考えを300字以内で論ぜよ。

小論文 (総合科学部) 851

問題用紙 その3

第2問 次の文章を読み、下の問いに答えなさい。

世論調査をはじめとするアンケート調査は、人々がどのような考えを持っているのかを調べるための有効な手段です。新聞社やテレビ局、政府機関のほか、企業や研究者などが様々なアンケート調査を頻繁に行っています。しかし、そうした調査結果を見るときには、いくつか注意しなければならない点があります。

たとえば、「当社製品に90%の人が満足」といった広告をよく目にします。しかし、その調査はいったい何名を対象にしたのか、その対象者をどうやって選んだのかが明示されていなければ、「90%」という数字にはほとんど意味がありません。対象者が10名で、しかも全員がその会社の社員だったら、当然ほとんど全員が「満足」と回答するでしょう。

つまり、アンケート調査結果を見るときには、まずは「対象者が何名か」「その対象者をどうやって選んだのか」を気にかける必要があります。対象者の数は、一般的に言って多い方がよいですが、「対象者の選び方」はどうでしょうか。

社会には様々な人がいます。その会社の社員もそうでない人も、その製品に関心がある人もない人もいます。年齢や性別、職業や所得なども様々です。社会について何かを明らかにするには、そうした多様な人々の構成割合をおおむね反映したグループを調査対象としなくてはなりません。そのためには、たとえば電話番号など、年齢や性別や職業などといったその人の属性とは無関係に割り当てられているものをもとに、ランダム(無作為)に対象者を選び出すことが必要です。

広告で使われているアンケート調査ではそうした「ランダムサンプリング」はほとんど行われていないと見てよいでしょう。他方、新聞社などが行う世論調査は、調査の専門家が対象者の選定に細かく気を配っています。おおむね適切なランダムサンプリングが行われていると考えてよいでしょう。

にもかかわらず、同じテーマで調査した結果が、新聞社によって大きく異なることがあります。たとえば、発表されるといつも大きな話題になる「内閣支持率」は、実は新聞社によって大きく異なることが知られています。2022年8月に毎日新聞社と日本経済新聞社が行った調査での内閣支持率は、それぞれ36%と57%でした。9月はそれぞれ29%と43%。いったいどうしてこのように大きな差が出るのでしょうか。

答えは、質問の仕方の違いです。毎日新聞では「岸田内閣を支持しますか」という質問に対して、回答は「支持する」「支持しない」「答えない」の三択です。なので、政治に関心がない人は「答えない」を選択します。他方、日本経済新聞では「支持」「不支持」の二択で、しかも「どちらとも言えない」と答えた人には、「あえて言えばどちらですか」と重ねて聞くのだそうです。そのような聞き方をすれば、「支持率」も「不支持率」も高くなるのは当然です。

その他にも、調査を対面で行うのか電話なのかインターネットなのかといった調査方法による違いも起こりえます。人間、面前の相手にはいいかげんな答えを言いにくいですが、電話、インターネットと、相手の様子がわからない調査方法ほどいいかげんに答えがちだからです。郵送の場合には、書面に記入して封筒に入れて投函する^{とうかん}という手間がかかるので、まじめな人ほど回答することも考えられます。

また、多くの人は自分を教養のない怠け者だと思われたくないので、知らないことについて聞かれても知っているふりをして答えたりしますし、本当は選挙に行くのは面倒くさいと思っているのに「必ず投票に行きます」と答えたりします。質問についての解説や説明が付けられているときには、その説明文をもとにその場で考えることができるので、「わからない」などと答える人は少なくなります。

さらには、質問や選択肢の順番が回答に影響を与えることすらあります。最高裁判所裁判官の国民審査では、右端に書かれた名前に×を付ける人が多いと言われています。

(出典：書き下ろし)

小論文 (総合科学部) 851

問題用紙 その4

問

本文で説明された注意点に即して、次に挙げる二つの世論調査でほぼ正反対の結果が出た理由を1,000字以内で考察せよ。

①朝日新聞社による世論調査

集団的自衛権 行使容認反対 63% 昨年より増加 本社世論調査

安倍政権が集団的自衛権の行使容認に向けた姿勢を強めるなか、朝日新聞社は憲法に関する全国郵送世論調査を行い、有権者の意識を探った。それによると、集団的自衛権について「行使できない立場を維持する」が昨年の調査の56%から63%に増え、「行使できるようにする」の29%を大きく上回った。憲法9条を「変えない方がよい」も増えるなど、平和志向がのきなみ高まっている。

(2014年4月7日『朝日新聞』1面より、一部省略)

<質問項目>

集団的自衛権についてうかがいます。日本にとっての集団的自衛権とは、同盟国やその軍隊が攻撃されたときに、日本が攻撃されていなくても、日本に対する攻撃とみなして一緒に戦う権利のことです。日本はこの権利を持っているが、憲法第9条により行使できない、というのが政府の解釈です。集団的自衛権についてどのように考えますか。

- ・行使できない立場を維持する(ほうがよい) 63%
- ・行使できるようにする(ほうがよい) 29%

(注:「その他・答えないは省略」と、紙面の別個所に記載あり。)

<調査方法>

全国の有権者から3千人を選び、郵送法で実施した。対象者の選び方は層化無作為2段抽出法。全国の縮図になるように339の投票区を選び、各投票区の選挙人名簿から平均9人を選んだ。2月12日に調査票を発送し、3月24日までに届いた返送総数は2119。無記入の多いものや対象者以外の方が回答したと明記されたものを除いた有効回答は2045で、回収率は68%。

有効回答の男女比は男47%、女51%、無記入2%。年代別では20代8%、30代16%、40代16%、50代15%、60代20%、70代17%、80歳以上7%、無記入1%。

(同11面より、一部省略)

(その5に続く)

小論文 (総合科学部) 851

問題用紙 その5

(その4より続く)

②読売新聞社による世論調査

集団自衛権 71%容認 本社世論調査 「限定」支持は63%

政府が目指す集団的自衛権の行使に関して、「必要最小限の範囲で使えるようにすべきだ」とした「限定容認論」を支持する人は63%に上がることが、読売新聞社の全国世論調査で分かった。「全面的に使えるようにすべきだ」と答えた8%と合わせて計71%が行使を容認する考えを示した。行使容認論の国民への広がりが鮮明となり、近く本格化する集団的自衛権を巡る与党協議にも影響を与えそうだ。

(2014年5月12日『読売新聞』1面より、一部省略)

<質問項目>

日本と密接な関係にある国が攻撃を受けたとき、日本への攻撃とみなして反撃する権利を「集団的自衛権」と言います。政府はこれまで、憲法上、この権利を使うことはできないとしていました。この集団的自衛権について、あなたの考えに最も近いものを、1つ選んで下さい。

- ・全面的に使えるようにすべきだ 8%
- ・必要最小限の範囲で使えるようにすべきだ 63%
- ・使えるようにする必要はない 25%
- ・その他 0%
- ・答えない 4%

<調査方法>

5月9～11日に、コンピュータで無作為に作成した番号に電話をかけるRDD*方式で実施。

有権者在住が判明した1821世帯の中から1080人の有権者の回答を得た。回答率59%。

*RDD=Random Digit Dialing

(同17面より、一部省略)

受験番号	第	番
------	---	---

小論文 (総合科学部) 851
 解答用紙 その1

第1問

問1

		5		10		15		20		25
1										
4										

100字

(25×4=100字)

小計	点
----	---

問2

		5		10		15		20		25
1										
4										
8										
12										

100字

200字

300字

(25×12=300字)

小計	点
----	---

受験番号	第	番
------	---	---

小論文 (総合科学部) 851
解答用紙 その2

問 3

	5	10	15	20	25	
1						
4						100字
8						200字
12						300字

(25×12=300字)

小計	点
----	---

受験番号	第	番
------	---	---

小論文(総合科学部) 851
解答用紙 その3

第2問

	5	10	15	20	25	
1						
4						100字
8						200字
12						300字
16						400字
20						500字
24						600字

(解答用紙その4に続く)

受験番号	第	番
------	---	---

小論文(総合科学部) 851
解答用紙 その4

(解答用紙 その3から続く)

	5	10	15	20	25	
25						
28						700字
32						800字
36						900字
40						1000字

(25×40=1000字)

小計	点
----	---